令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人堺市文化振興財団
施設名	堺市民芸術文化ホール（フェニーチェ堺）
内定額	3,655　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
普-01	ワカテdeワカル　フェニーチェ文楽	2025/10/22	小ホール
普-02	フェニーチェ文楽「観る前セミナー」	2025/8/28 2026/1/17	文化交流室
普-03	音楽のあるひととき	2025/4/12、5/31、 10/2、2026/2/5	小ホール、小ホール 大ホール、レストラン
普-04	フェニーチェ演劇解体新書(演劇ワークショップ)	2025/12/4、12/5、 12/6~7、2026/1/13~16	大スタジオ（３回）、 大ホール
普-05	バレエ鑑賞のススメ	2025/11/19	大スタジオ
普-06	まずはここから！　ひるらくご	2025/6/14、10/10	大スタジオ
普-07	知的・発達障害児(者)のための劇場体験プログラム	2025/9/20	大ホール
普-08	小ホールで愉しむオペラ	2025/10/13	小ホール
普-09	夏の子どもワークショップDAY	2025/8/19	大スタジオ、文化交流室
普-10	海外バレエカンパニーの魅力と秘密	2025/5/10	大スタジオ
普-11	トマシュ・リッテル演奏会＆ワークショップ	2025/6/21	大スタジオ

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	46	48	43
	公演事業	20	20	17
	（内、本助成対象事業本数）	8	8	0
	人材養成事業	2	5	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
	普及啓発事業	22	16	16
	（内、本助成対象事業本数）	10	9	11
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　賑わい創出・堺東周辺活性化事業	2	7	6

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	346	363	396
	ホール名：大ホール　座席数：2000	180	191	209
	ホール名：小ホール　座席数：312	166	172	187
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		34,165	46,862	39,913
		公演事業	17,534	20,418	11,243
		人材養成事業	93	3,269	3,291
		普及啓発事業	4,788	5,788	7,666
		共生社会事業			
		その他　内容：　賑わい創出・堺東周辺活性化事業	11,750	17,387	17,713
	貸館事業入場者・参加者数		206,481	317,433	379,813
	その他　内容：　共催事業		31,877	23,179	39,095
	計		272,523	387,474	458,821
開館日数			339	335	335
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））			339	335	335
施設の利用日数					
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）			84.4%	81.2%	89.4%

備考	
	※上記の施設の利用日数は、当該施設は複数の諸室（大ホール、小ホール、大スタジオ、文化交流室など）を有しているので、それらの施設が全て稼働していない日はないので、100%の稼働率になってしまう。よって、施設ごとの点検などで使えない日も考慮して、全施設の平均稼働率を記載している。

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	20	27	17,534	0	12	1	7	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	14	17	31,877	0	12	0	0	1	0	1
	貸館公演	1,310	－	206,481	46	703	125	0	22	0	414
	計	1,344	44	255,892							
令和6年度	主催公演（※1）	20	22	20,418	1	10	2	7	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	10	17	23,179	0	8	0	0	1	0	1
	貸館公演	1,437	－	317,433	31	752	114	0	23	0	517
	計	1,467	39	361,030							
令和7年度	主催公演（※1）	17	19	11,243	0	7	1	8	0	0	1
	共催・提携公演（※2）	19	31	40,223	0	14	1	2	1	0	1
	貸館公演	1,825	－	379,813	22	989	158	0	9	0	647
	計	1,861	50	431,279							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人堺市文化振興財団
施設名	堺市民芸術文化ホール（フェニーチェ堺）
内定額	3,655　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（２）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※１）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業			
普及啓発事業	①地域の芸術文化団体等と当ホールスタッフが協働した企画・制作による公演数（事業計画） ②事業への参加者数（着券数） ③新規来館者数（アンケート） ④地域のプロオーケストラ大阪交響楽団と連携した公演数（事業計画）	①年間４公演以上 ②公演参加者数をキャパシティの80%以上とする ③新規来館者の割合を 20%以上とする ④年間２公演以上	①年間５公演を達成した（普-03、普-04、普-05、普-08、普-10） ②公演参加者数は 79.4%（平均）。 ③新規来館者の割合は 16.4%（平均）となった。 ④普-03 は、１事業４公演の実施。
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書　　堺市民芸術文化ホール（フェニーチェ堺）

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	●普及啓発事業では、特に地域の芸術文化団体や地域で活躍するアーティスト個人と連携して企画を作り上げることに努めており、地域の状況として、大阪交響楽団、堺シティオペラ、野間バレエ団の各文化団体が揃っていることで、当劇場のスタッフは各団体と事業についての大なり小なりの協力や連携を行うことができている。 【普-03 音楽のあるひととき】 大阪交響楽団と練り上げた企画で、通算 21 回の開催となった。連携を重ねるごとにお互いの信頼関係が生まれ、継続的な企画立案が共同で実施できている。他に支援対象事業ではないが、楽団とは「フェニーチェ堺名曲シリーズ」を大ホールで毎年実施しており、この普-03 を一つのプレ公演的に活用して、来場者を大ホールのクラシック公演に誘導を図り、相互協力で地域の音楽文化の広がりを目指している。なお、楽団には支援対象事業ではないが、全国共同制作オペラでの演奏など更なる連携機会の増加を図った。 ・普及啓発事業の助成対象となった全事業の参加者割合は 79.4%となり、目標をほぼ達成したが、例年に比して演劇 WS の参加者数が少なかったため、次回は PR の改善を行う。ほぼ目標値の来場者を獲得できたことは、地域に密着したニーズの高い企画を提供することができていると評価できる。劇場の活動によって、地域で芸術文化に携わる人々の認知も向上し、芸術文化を享受する人々も増え、文化的環境が整うことで市民の心豊かな生活に繋がると考えている。 ・普及啓発事業は、文化芸術の裾野拡大のための入口となる事業であるため、初めての人でも参加しやすいようにわかりやすい言葉でタイトルやコピーを表現し、入場料を抑えるとともに短時間で楽しめるものとした。各事業ともリピーターが増加しており、新規来館者の指標は未達となってしまったが、次回は新規の PR 先を開拓することを検討する。他の指標は達成したため、総じて想定した成果があったと考えている。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

評価項目②：国際性（任意）

（※１）…S～D で記入すること。

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。
	・自由設定の観点（任意）（※２）

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①海外の実演芸術団体等との実施公演数（事業計画） ②海外の実演芸術団体による公演に対する来場者の反応（アンケート）	①年間２公演以上 ②とても満足した、満足したと回答する人の割合を 90%以上にする	①年間１公演の実施（普-11）となり、目標には届かなかった。しかし、支援対象外の事業で、チェコ共和国のブルノ国立劇場の演劇「mother」を堺市とともに招いて実施した。 ②普-11 の公演の満足度は 97.1%、支援対象事業ではない「mother」の満足度は 93.3%（2 公演平均）となった。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	●堺の街は、中世における自由・自治都市であり、南蛮貿易の港として様々な人やモノを受け入れてきた土壌があり、その受け継がれている国際性に視点を向けた事業を実施することができた。 【普-11 トマシュ・リッテル演奏会＆ワークショップ】 アーティストと使用するフォルテピアノは決まっていたものの、WS については当ホールから目的や対象者を考案し、大阪音大の教授などにも相談しながら公開クリニックの企画を立案した。当日は英・仏・独の３か国語を操る元ピアニストを通訳として起用して、アーティストの話す指導内容や受講生との対話を聴講者にわかりやすく通訳し、披露することができた。受講生からのアンケートでは「自分の中でこれだという表現が中々見つからなくて苦労していたので、今日トマシュ先生にレッスンしていただき、得るものがたくさんあり、とても有意義な時間でした。」などといった回答を得られ、良い交流機会を作れたと感じている。 ・対象事業ではない「mother」は新国立劇場での公演後、堺での受け入れから舞台設営、リハーサル、公演本番、撤去、出国までをエージェント無しで堺市の国際課と共同して対応した。特に堺市には在堺チェコ共和国名誉領事館がある所縁もあり関係性が深いため、チェコ共和国の芸術文化団体の公演をできるだけ継続的に実施し、交流することが一つの目標となっている。演劇公演を介しての交流は、国際プレゼンスの向上に繋がるとともに当劇場の制作・広報や舞台技術のスタッフにも大きな刺激となり、来場者の満足も高かったため、想定以上の成果があったと評価している。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	貸館利用者が施設利用に満足している。
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
①地域の文化団体や文化資源を活用した公演数（事業計画） ②地域における芸術文化の裾野の広がりを図るため、普及啓発事業へ参加する市民の割合（アンケート） ③障がい者による芸術文化活動をサポートする団体（手話や要約筆記など）との連携数（事業計画） ④こどもや未就学児を対象とした公演の来場者率（着券数） ⑤貸館利用者の満足度（アンケート）	①年間５公演以上 ②普及啓発事業に参加する市民の割合 70%以上 ③年間３団体以上 ④来場者率 80%以上 ⑤貸館利用者の満足度を 90%以上	①年間５公演を達成した（普-03、普-05、普-07、普-08、普-09、普-10、普-11） ②普及啓発事業に参加する市民の割合は 69.6%（平均）となった。 ③普-07 の公演を実施するにあたり、国際障害者交流センター、堺市発達障害者支援センター、堺市健康福祉プラザ（視覚・聴覚障害者センター）、堺市立総合医療センターの４団体と連携し事業を実施した。 ④こどもや未就学児を対象とした公演(普-07、普-09)の来場者率は、85.5%（平均）となった。 ⑤大満足と満足を含めて 99.1%。

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	●堺市にはオーケストラ・オペラ・バレエをはじめ、アマチュアオーケストラ、合唱連盟、吹奏楽連盟と音楽に携わる人が多く、音楽文化が根付いていると考えている。令和7年度もそういった特徴を活かした事業を実施できた。 【普-03 音楽のあるひととき】は大阪交響楽団との企画立案と運営、【普-05 バレエ鑑賞のススメ】は野間バレエ団から舞台写真や資料の提供、【普-07 知的・発達障がい児(者)のための劇場体験プログラム】は国際障害者交流センターとの企画立案と運営、【普-08 小ホールで愉しむオペラ】は堺シティオペラとの広報協力、【普-09 夏の子どもワークショップ DAY】は桃山学院大学によるコンテンツ協力と運営、【普-10 海外バレエカンパニーの魅力と秘密】は市在住の大石裕香氏の登壇、【普-11 トマシュ・リッテル演奏会＆ワークショップ】は大阪音大からのワークショップ受講生の受け入れなど、地域の特性を活かした事業の組み立てを行うことができた。 ・上記各事業に参加する市民の割合は、ほぼ目標に到達し、目的としている堺市民に文化芸術を普及させていくという意味では、一定の役割は果たしていると考える。 ・地域連携という観点からは、【普-07 知的・発達障害児(者)のための劇場体験プログラム】では特に地域の関係機関とも連携や協力を得ることができ、多様な人々を円滑に迎え入れることができた。申込状況からも非常にニーズの高い事業であると認識できるため、継続することで障がい児だけでなく、その家族や関係者がリラックスして音楽を楽しめる機会の提供となり社会課題の解決の一助となっている。 ・次代を担う子どもたちへの文化芸術体験の機会の提供という観点では、【普-09 夏の子どもワークショップ DAY】をはじめ、子どもたちが参加しやすい事業が継続でき、子どもや未就学児を対象とした公演の来場者率の目標を達成した。 ・支援対象事業ではないが、市内の高校ダンス部が出演する「Dance power 2025」など児童生徒が参加しやすい公演も継続し、機会提供に励んだ。 ・貸館利用者の満足度の目標値を達成できたのは、利用終了後のアンケートによって出された要望や苦情などに対して、可能な限り対応していくことで次回以降の満足度の向上に繋がっていることが大きく評価に値する。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。
・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①障がい者が参加しやすい公演数（事業計画） ②U-25 などのチケット販売を行っている公演への若年層の参加割合（販売全体に対する U-25 チケット販売数） ③子育て世代や未就学児が参加可能な公演数（事業計画）	①年間 1 公演以上 ②U-25 などの対象チケット販売率 30%以上 ③年間 2 公演以上	①年間 1 公演を達成した（普-07）。 ②U-25 などの対象チケットを販売した公演（普-04）の販売率は 16.25%だった。 ③年間 2 公演を達成した（普-07、普-09）。

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	●当劇場は「積極的な多目的ホール」を標榜し、音楽以外にも幅広いジャンルの事業を継続的に行うことを意識して、年齢や障がいの有無などに関係なく、あらゆる人々が参加できるようにプログラムを組み立てており、令和 7 年度は障がい者や若年層、就学前のこどもなどが参加できる機会を創ることができた。 また、ハード面においては、障がい者駐車場（3 台）、貸出用車イス（4 台）、車イス席（大ホール 12 席、小ホール 4 席）や合計 19 カ所の多目的トイレをはじめ、難聴者用視聴システム（ヒアリングループ）、大ホール固定席の脱着による障がい者席の増席、正面玄関入口等の音声ガイド、点字ブロックやほじょ犬同伴可などを機能として有しており、施設構造、設備上の配慮がなされている。 【普-07 知的・発達障害児(者)のための劇場体験プログラム】 上記の施設構造、設備上の配慮に加え、イヤーマフなどの備品、クールダウンゾーンの設置などを行い、加えて、プログラム上では要約筆記や手話通訳、看護士を配置し、鑑賞サポートの充実を図り、障がい者が参加しやすい公演を実施した。 【普-04 フェニーチェ演劇解体新書（演劇ワークショップ】 上記公演では、若年層の参加を促すために前回同様 U-25 チケットの設定を行った。しかしながら、令和 7 年度は目標を達成することができず（令和 6 年度は 47.4%の実績値）、次回はワークショップの実施期間や時間帯の見直しを図る方が良いと考える。 ・アクセシビリティの観点からは、子育て世代や未就学児が参加可能な公演として、対象者を絞ったプログラムを用意することができ、目標を達成した。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

【普-01 ワカテ de ワカル フェニーチェ文楽】
・若手の方々の成長の場としての存在をありがたく思っております。終演後に出演者の写真が撮れるのが嬉しいです。他所ではありえない。
・プログラムの人形小割表で左手、足遣いが表示されているのが嬉しかったです。
・とても面白かったです。文楽を観に行くことはあったのですが、太夫さんや人形遣いの方のお話を聞かせていただいたことは無かったので、とても楽しかったです。とても楽しいプログラムだと思いました。今回が 6 回目ということでしたが、これまで知らずにいたことが残念に思えました。木ノ下さんのお話を引き出す力も聞いていて楽しかったです。
・久しぶりに文楽を観ました。三味線の音がすごく好きです。若手の人も一生懸命で感動しました。早く一人前になって国立文楽劇場に出て欲しい。太夫さんの掛け合いもすばらしかったです。

【普-02 フェニーチェ文楽「観る前セミナー」】
・今まで文樂を鑑賞したのは 40 年近く前 1 回だけでしたが今回文樂の鑑賞の仕方などが解説してもらえるかと思い参加しました。でもまさか現役で舞台に出られている人形遣いの方が来られてテーブルを回ってお話しできるとはびっくりしてしまいました。推しの方も沢山いらっしゃったのでさらにびっくりです。私もこれから推しになりたいです。

【普-03 音楽のあるひととき】
・ミュシャと音楽とのコラボが嬉しかったし、演奏者の方が直接作曲家や楽曲について、解説して下さったのが、とても興味深かったです。またミュシャ館の学芸員さんと演奏者の方との対談もミュシャの絵とクラシック曲の両方が好きな自分にとってとても贅沢でした。ハイドンが弦楽 4 重奏の父ということで、曲目にハイドンを必ず入れられているというのを、とても素敵だなと思いました。コンサートの時間もしっかりかつ、気軽に楽しめてとてもよかったです。
・前回、音楽のあるひとときに初めてきてほどよい長さのコンサートで疲れなく楽しめました。交響曲も一曲だけ聴きたいと思うことがよくあります。
・オーケストラの金管楽器、特にトランペットが好きで、図書館におかれたチラシを見つけて、聴きにきました。 久しぶりのオーケストラでした。ラジオや YouTube で聴いてはいましたが、生は違いました。全身で音を聞く感じ。違いました。また、演者同士のアイコンタクトや、個性豊かな演じ方で、音(耳)だけでなく、目でも楽しめました。聴きに行くということは、こういうことなのかと。 是非、また機会があれば、聴きに行きたいです！
・素敵な演奏をありがとうございました。楽器の説明もおもしろく勉強になりました。低音かっこいい！！　指遣いやテクニックを近くで拝見でき、嬉しかったです。楽しい時間をありがとうございました！また来たいです。
・室内楽としてお茶をいただきながらの今回のプログラムは普段よく聞くオーケストラコンサートはひと味違って実に楽しいひとときでした。

【普-04 フェニーチェ演劇解体新書（演劇ワークショップ】
・こういうワークショップがあることを知りませんでした。準備不足のため、参加した後に改めてプログラムの趣旨をひしひしと感じました。また、含蓄富んだ講師の藤井さんのお話、参加者の方々と共有した時間、その全てが内省するものとなりました。表現することとそのアプローチについて考えさせられ、「モノづくり」の奥深さに触れることができた得難い機会になりました。ありがとうございます。
・体を動かしコミュニケーションが沢山行われるワークショップだったので、とても楽しい時間でした。人それぞれが持つ言葉の魅力に感動しました。参加者同士だけでなく講師の方にも沢山話しかけていただき、楽しい時間とな

りました。アイデアが生まれ続け、終息地点を見つけることの方が難しく、作家さんは大変だなと面白かったです。

【普-05 バレエ鑑賞のススメ】

・すごく楽しかったです。バレエは、人生で一度も鑑賞したことがありません。タイトルの通り「好き」をみつけるために来ました・知らない世界が、どんどん広がって、ワクワクする時間でした。日々、家族のことでいっぱいいっぱいの私を、すごい世界へ連れ出していただきました。ありがとうございます。！！

【普-06 まずはここから！ひるらくご】

・初めて落語を生で聞きました。とっても楽しく大笑いさせて頂きました。63 歳ボケ防止で今後も何度も通いたいと思えました。桂かい枝さんすごくおもしろくて、英語落語も孫と来れたらと思います。笑福亭笑利さんも新作落語おもしろかったので又聞きたいです。

【普-07 知的・発達障害児(者)のための劇場体験プログラム】

・初めて参加致しましたが、障害児の子供に参加しやすい時間で、無理のない感じでした。 説明も分かりやすくとてもよかったです。 待ち時間にうちの子は凄いエレベーターに執着があり、ご配慮くださりスタッフの皆様に感謝致します。 お陰でみることができて嬉しく思います。 あのご配慮がなければ帰ることになってたと思います。

【普-08 小ホールで愉しむオペラ】

・いつもプレの鑑賞会があるので、本公演の時、解り易く大変ありがたいです。またこれからも続いてください。本物の歌は、やっぱり迫力があって良かったです。今日はありがとうございました。

【普-09 夏の子どもワークショップ DAY】

・小一ということで集中力がなく体験するには早かったかなと最初は思いましたが、アサダさん始めスタッフの方々が温かく接してくださり、周りのお姉ちゃん、お兄ちゃんに助けられながら楽しめたようでした。 なかなか出来ない貴重な経験が出来、大満足です。

【普-10 海外バレエカンパニーの魅力と秘密】

・知らない世界に少し触れられて楽しめました。7 月の本番が待ち遠しいです。山本康介氏の解説イヤホンガイドが欲しいです。楽しく解りやすいです。

【普-11 トマシュ・リッテル演奏会＆ワークショップ】

・以前はよくコンサートに行っていましたが、耳の病気をして以来、大きな音が苦手になり遠のいていました。貴館でプレイエルピアノのコンサートが開かれるようになり、耳に優しく、また語り掛けるようなプレイエルピアノの魅力を楽しませていただいております。作曲当時の方々はこのような音を聞いておられた事、様式など興味深いです。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	助成金の獲得に注力しており、寄附金や協賛金等の獲得に努めている。	特に公演事業は広報計画を作成し、それに沿ったPRを行っている。SACAYメイト（チケット購入サービス）の登録制度を有しており、その拡充に努めている。
目標(値)（※2）	令和7年度中に賛助会員制度を構築し、令和8年度から執行する。	SACAYメイトの増加 （目標：5,000人増）
実績(値)	令和7年度中に賛助会員制度の構築ができた。令和8年度から会員募集の印刷物等を作成し、現在募集に励んでいる。	収容席数が多い、大ホールの公演事業（オペラやクラシック、伝統芸能など）は広報計画を作成し、それに沿ったPRを行った SACAYメイト（チケット購入サービス）の登録者数の増加は9,056人（実績値）だった。。
団体の自己評価	自己財源の確保のためのシステムが新しく一つ出来上がり、従前からの寄附制度と併せて、多様な財源確保策が充実し、評価できる。	SACAYメイトの登録者は令和8年4月8日現在で70,335人。年間登録者数は目標を達成した。 地域の特性やニーズに応じた事業展開がチケット購入サービス（＝券売）の登録者増加に繋がったと評価できる。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	全国共同制作オペラへの参画や東京の劇場との共催公演を実施している。	意思疎通の必要性を感じているものの、毎月の定例会議が今年度から２カ月に１回に減少しており、公式に現場の声を届ける機会が減り、設置者における人材や財源の確保等は期待できない。
目標(値)（※2）	共同制作や共催を通じて、他館ノウハウの吸収や人脈づくりを行う。	コミュニケーションを粘り強く継続し、事業の継続や中長期修繕計画の理解を得ていく。
実績(値)	全国共同制作オペラでは、当ホールの制作スタッフが約 3 週間、東京芸術劇場の稽古場で幹事館とともに制作を担当し、他館の制作ノウハウを吸収した。 また、東京の紀尾井ホールとの共催は、当ホールの制作スタッフが、紀尾井ホールのスタッフとともに広報計画を立て、リリース先を共有したうえで、記者、ライターや評論家などに分担してアプローチし、相互にノウハウの吸収を行うことができた。	当劇場の舞台技術スタッフを中心に、中長期修繕計画の必要性や意義、想定される実施時期の説明を行い、コミュニケーションのきっかけを作った。また、指定管理の仕様書では読み取れない、設置者が実施を期待する中心市街地活性化へとつながる事業の具体的方策を聞き出し、それに近しい企画を立てるなどの実績を上げた。
団体の自己評価	共同制作や共催を通じて、他館のノウハウを吸収した当劇場のスタッフは、その後ほかの主催公演の際に能動的に動くことや、新しい知識を応用するなど好影響を出している。 また、培った人脈によって情報交換を行うなど、期待した当劇場の人材育成のモデルケースとなり、大きく評価できる。	上記の両方の側面とも、設置者と指定管理者の両者の乖離した部分を埋めていく方策となり、粘り強いコミュニケーションを図ったことが実を結んだと評価できる。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	統括プロデューサー１名と芸術文化アドバイザー４名を配置している。	副館長とマネージャーを配置している。
目標(値)（※2）	本体制の維持を図り、専門性ノウハウが組織内に伝播していく環境を整える。	今後も本体制を維持する。
実績(値)	現状の体制を維持できた。芸術文化アドバイザー１名とは具体的な独自性のある事業を１本立ち上げることができた。	現状の体制を維持できた。
団体の自己評価	本体制を維持し、また芸術文化アドバイザーと企画立案を行うことは、劇場スタッフの専門性の向上に繋がり、次のスタッフの育成にも寄与するため、団体として評価できる。	本体制を維持することは、劇場の財務体質の健全化やその見通しを立てるためには必要で次のスタッフ育成にも繋がるため、団体として評価できる。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	運営体制は整備済みであるが、後進の育成に課題がある。	職位、職能、一般職員の職務内容は専門性を基に整理済みだが、一部属人的にならざるを得ない部分がある。
目標(値)（※2）	スタッフの 50%以上が年 1 回以上の外部研修を受講する。	専門性は重視しつつ、ジョブローテーションを行いながら属人的な部分の比重を減らしていく。
実績(値)	事業や制作のスタッフのうち、8 人中 6 人が外部研修を受講することができた。	1 名がプロモーション・地域連携担当課と企画制作担当課を兼務することとなり、属人的な業務の解消が一部進んだ。まだ属人的な業務が残っている。
団体の自己評価	現在、必要な専門人材は確保されているが、指定管理期間（10 年）の間に確実に高齢化するため、次の公募を勝ち取り、安定した芸術文化施策を展開するために後進の育成は不可欠である。今回外部研修を多く受講できたことは将来に亘って活きてくると考えられるため、評価に値する。	専門性を基に整理済みだが、一部には属人的な業務が残っており、徐々に改善する方向に動いており、評価できる。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	昨年度、20 代～30 代の若年層を雇用でき、世代間バランスが整っている。	女性管理職比率が約３３．３％である。
目標(値)（※2）	雇用した若年層の継続雇用を目標に、無期雇用や正規職員化などを設置者と協議する。	今後もジェンダーバランスを意識し、女性の管理職やリーダー職への登用に努める。
実績(値)	契約職員の 1 名を無期雇用化するための協議を経て、令和 8 年度当初からの無期雇用転換が叶った。	女性の管理職やリーダー職への登用に努め、人事異動はあったものの約 33.3%は維持できている。
団体の自己評価	自治体出資の法人のため、継続雇用には自治体との協議が必要であるが、 1 名が無期雇用に転換できたことは評価できる。引き続き環境整備に努めるべく自治体と協議を継続する。	法人規模は小さく 100 人未満だが、女性管理職比率を意識した組織運営と後進の育成は評価できる。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	育児休暇・介護休暇等の規程は整備済み	各種情報保護規定等は整備済み。令和 6 年 11 月 7 日にプライバシーマークを取得した。
目標(値)（※2）	各種休暇制度に則って、各自が遠慮なく休暇を取得するようにする。	プライバシーマーク認証に定める管理手法を継続し、情報セキュリティに関してリスク管理を徹底する。
実績（知）	各種休暇制度に則って、各自が休暇を取得できている。令和 7 年度の休暇取得率は 71%となっている。また、夏季のレクレーション休暇の取得率は 99.1%だった。	全財団職員を対象に個人情報保護研修を年 1 回実施した。また、ＪＶ共同事業体としての情報セキュリティ運用ルールを定めた。新聞報道などでの情報漏洩事件の記事を職員に共有化するなど常にリスクと背中合わせであることを意識してもらうようにしている。
団体の自己評価	仕事と育児・介護等の両立支援制度は整備されており、組織をあげて、その取得を推進しているため、評価に値する。	プライバシーマーク認証のほか、全財団職員への共通の研修を行うなど、常日頃から意識改革を進めていることは評価できる。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	ハラスメントの防止に関する要綱は整備済み	個人事業主のアーティスト等とは契約書ではなく、依頼書と承諾書のやり取りが一部残存している。
目標(値)（※2）	ハラスメント防止、人権関連の各種研修を継続的に実施する。	見積書の作成などアーティスト本人の理解を得ながら、できるだけ多くのアーティストと適正な契約書を交わすこととする。
実績(値)	全財団職員を対象にハラスメント研修を年 1 回実施した。内部相談窓口のほかに、令和 7 年度は外部相談窓口を新たに設置しハラスメント防止に努めた。全国共同制作オペラの現場では長期間の稽古となるため、参画した 3 館共通のハラスメント指針を定め、運用を行った。	できるだけ多くのアーティストと適正な契約書を交わすことができた。一部落語公演の前座などにおいては依頼書と承諾書が残っている。以前は依頼文書のみでの業務発注だったものを契約書で行うように改善を進めている。
団体の自己評価	全財団職員への共通の研修を行うなど、ハラスメントに対する意識の変革を職員に求め、働きやすい職場環境を整えることに尽力している点は評価できる。また、創作現場において、令和 7 年度に指針を設けたことも評価できる。	一部にはまだ残存しているものもあるが、できる限り改善しようと進めていることは評価できる。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
●フェニーチェ堺は、堺固有の文化資源を継承し、また堺の新たな文化芸術を創造・発信する場であり、子どもや障害者などのあらゆる人が文化芸術に触れ学ぶことができ、文化芸術を介して市民相互の交流が図られる地域の文化拠点として存在するものである。加えて、独自性のある公演や海外からの招へいを含む多彩な公演を実施し、都市の活性化のために市外から人を呼び込む大きな役割を担っている。よって、「見て聴いて感動する」「共につくる」「集い交わる」「学び育てる」「触れて知る」の５つの施設のミッションを設定し、それらをまちの賑いに繋げようとしている。 　フェニーチェ堺の将来像（ビジョン）は「多くの市民に永く親しまれ、愛され続ける施設」と「市民が誇りを感じる施設」であり、その実現に向けて、令和７年度は、所属する専門人材（舞台技術・制作・広報など）がアーティスト等と一緒になって、堺の文化資源を活かした独自性のある以下の事業を実施できた。 ●普及啓発事業は、「集い交わる」「学び育てる」「触れて知る」というミッションの具現化のために事業を組み立て、実際の各種普及型公演やワークショップでは地域の芸術文化団体と必ず何らかの連携を行うようにしている。令和７年度は、大阪交響楽団とは企画内容の立案を共に行う「音楽のあるひととき(普-03)」を実施し、「バレエ鑑賞のススメ(普-05)」では野間バレエ団から舞台写真などの資料の提供をいただき、「小ホールで愉しむオペラ(普-08)」では堺シティオペラとの相互広報協力を行った。直接のキャスティングが無くとも相互の関係に厚みを持たせるよう常に情報共有や協力体制を維持し、地域の文化発展のためのベクトルがズレないようにしている。また、「育成」にも焦点を当てている若手の技芸員が主役級に配役される「ワカテ de ワカルフェニーチェ文楽(普-01)」公演を継続的に実施し、それらのレクチャー講座となる「フェニーチェ文楽観る前セミナー(普-02)」を事前に行い、地域の文楽ファンの掘り起こしにつなげた。さらに、あらゆる人々が集える劇場として、子どもや障がい者などが劇場にくる機会を増やすための「夏のこどもワークショップ(普-09)」や「知的・発達障がい児（者）のための劇場体験プログラム(普-07)」、20代の若者が参加しやすいチケット価格を設定した「フェニーチェ演劇解体新書(普-04)」などでもプログラムの多様性を示し、地域の中核劇場としての役割を果たし、成果を得たことから評価に値すると考えている。 ●また、助成対象として申請していない事業では、当劇場のビジョンの実現のために、令和７年度の公演事業は国際プレゼンスの向上に資する、「英国バーミンガムロイヤルバレエ団」や、地域のクラシックファンを定着させるための「大阪交響楽団名曲シリーズ」の継続、堺市吹奏楽連盟と共催し、地域の青少年の発表の場を確保した「フェニックス吹奏楽」を実施した。加えて、普及啓発事業として、まだホールに来られたことのない市民に来てもらう、「ホール体験会」、人材養成事業では将来の担い手確保のための「インターシップ制度」を実施し、他館との連携や大阪音楽大学などの大学機関との連携を図った。堺市の仕様書にある堺東周辺活性化事業として、ホール周辺の「商店街が主催する事業へのアーティスト派遣」「商店街アート展」なども実施し、市が求める指定管理者としての成果をあげ、評価できる。 ●運営面では、令和１６ 年３月までの指定管理者として、一定期間の地域の文化拠点としての活動が担保されたものの、最近の人件費、物件費の高騰による固定費の増加が事業費の財源を侵食し、事業費の確保が課題である。 　以上のことを踏まえ、これまで築いてきた地域の文化振興とまちの賑わいを牽引してきたホールのブランドを維持するために、賛助会員制度をスタートさせた。チケット販売の向上努力や、寄附・協賛金の獲得の推進に更なる比重がかかると認識している。自助努力とともに設置者の自治体とも円滑な協議を進め、物価スライドの対策等や正規雇用などの体制づくりへの理解を求め、地域の文化拠点の継続性を守っていきたい。

備考